

KADENA SKOSHI

AUG 2011

Vol. 35

第18航空団広報局発行



“Fill Da Boot”

消防隊のブーツを寄付金でいっぱいに！

消防隊員、スペシャルオリンピックスへ資金造成活動

第18航空団広報局

“Fill Da Boot”

2011年8月13日、嘉手納基地の消防隊員らは来る11月に行われる嘉手納スペシャルオリンピックスのため、基地内で資金造成活動を行いました。

当時は、BX(ショッピングモール)の外で、消防隊のブーツを持って行き交う人々に寄付のお願いをし、(週末2日間で)約23,000ドルを集めることができました。これは、スペシャルオリンピックスで行ってきたこれまでのチャリティー活動の中では、単一イベントでの資金造成額として最高額となりました。当日は消防隊のマスコット犬「スパーキー」も一緒に参加し、寄付のお願いをしました。今年で12回目となる嘉手納スペシャルオリンピックスは、このような基地内のチャリティー活動や地元の方々からの寄付金で運営しています。

**嘉手納スペシャルオリンピックス
実行委員会活動、本格始動**

第18航空団広報局



8月24日、今年の嘉手納スペシャルオリンピックス大会を率いるボランティアや嘉手納基地の幹部が一同に集い、今年の大会に向け意気込みを確認しました。

(次ページへ続く)

CONTENTS

- スペシャルオリンピックス資金造成活動
- スペシャルオリンピックス実行委員会、本格始動
- 子ども会平和学習
- 学生のための嘉手納基地ツアー
- 沖縄市民、基地内戦跡を見学

- 沖縄理解増進セミナー
- 旧盆期間中の飛行制限
- ペットを飼う時の注意事項
- SpotLight: 基地内日本人従業員紹介



(前ページより続き)

嘉手納基地の第18航空団司令官マット・モロイ准将も出席して、実行委員会はもとより多くのボランティアに感謝を述べ、アスリートたちの素晴らしい才能が発揮できるようなアート展、スポーツ大会を準備して欲しいと挨拶しました。

今大会のポスターも発表され、あと60日余に迫る大会に向け成功を祈願しました。この日は、うるま市の就労継続支援施設桑の実に働くアスリートたちがパーランカーを片手に踊り、「壮行会」をいっそう盛り上げました。

これから資金造成活動、ボウリング大会、絵画展、本大会と、行事が目白押しで、米軍コミュニティではスペシャルオリンピックス活動への暖かい輪が益々広がっていきます。



(嘉手納基地広報局：宮良万亜子撮影)

(写真全て、米空軍：ナターシャ・チェイニー少尉撮影)



Kadena Special Olympics Misato Kodomo-kai

第18航空団広報局

沖縄市美里自治会 子ども会の親子が毎年自治会で行われている平和学習の一環として、今年は7月29日に嘉手納基地を訪れました。基地内に残る戦跡、降伏調印式跡地、旧日本軍中飛行場格納庫跡、宇久田小学校跡、そしてウカマジー野戦病院 海岸砲砲座跡を見学しました。降伏調印の碑の碑文を一つ一つ丁寧に読み、メモを取る子ども達もいました。

参加者の中には、戦前、宇久田地区に住んでいた方の孫にあたる人もいて、その方の祖父の名前を小学校跡に建つ記念碑裏に寄贈者リストのなかに見つけることができました。その方の家では、毎年お盆に、孫全員を一列に座らせ中飛行場を作るために駆り出され工事をしたことなど語り継いでいたとのことです。ウカマジーの丘では、米軍が上陸してきた地点がその丘から非常に近いことに参加者が驚いていました。



(写真指定以外は全て、米空軍：ジャービー・ヴァレス上等兵撮影)

MISATO KODOMO-KAI



学生のための嘉手納基地活動紹介ツアー

第18航空団広報局

Okinawa Christian University
Okinawa Christian Junior College

第18航空団広報局涉外部の新たな取り組みとして、大学生を対象とした基地内視察を始めました。嘉手納基地部隊の概況説明にほか、専門職を持つ軍人・軍属らによる各々の仕事について講話を加えました。8月に、沖縄キリスト教大学・短大の学生らあよそ20名が参加しました。英語を勉強している学生が多く、将来はフライトアテンダントや英語を使う職業を目指す大学生が多いということで、初回は、基地内でプロトコール（儀典室）を専門として働くシヤーリー・ウイリアムズ2等軍曹を招き、VIP訪問者のため緻密な準備が求められること、詳細な行程作り、食事会における席順、名札の作成、招待状の作成など具体的な説明をしました。説明は、全て英語のみで行われました。

また、広報局のエド・グーリック氏は学生らに広報局・報道部の仕事について説明しました。前職で、ワシントンDCの空軍本部にいたこともあります。世界中にニュースを発信するCNNやワシントンポスト等との仕事をした経験にも触れました。米軍基地には様々な専門職を持つ人々が働いており、視察案内を通して地元沖縄の学生に紹介できる機会を増やしていく予定です。



(写真全て、嘉手納基地広報局：普久原尚子撮影)

沖縄市民が、基地内戦跡を見学

第18航空団広報局

8月18日、沖縄市住民、沖縄市内勤労者及び沖縄市役所職員らあよそ100名の人々が嘉手納基地内にある沖縄戦の戦跡・史跡を見学しました。参加した人々は、第18航空団の広報涉外部職員の案内で、沖縄戦降伏調印の碑、旧日本軍中飛行場格納庫跡、旧日本軍野戦病院跡を見学し歴史的背景も学びました。今年で18回目の視察となりました。



Historical Site Tour!



(写真全て、米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)

沖縄理解増進セミナー

第18航空団広報局

8月22日、外務省沖縄事務所主宰による沖縄理解増進セミナーが、嘉手納基地内で開催され、40人以上の空軍関係の航空兵 軍属が参加しました。第1部では琉球 沖縄の歴史の説明と沖縄戦の記録映像の上映、第2部では沖縄伝統古武道の演武の鑑賞と武術の技を体験しました。同セミナーの空軍関係者への開催は、今回で4回目となりました。



(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)

旧盆期間中の飛行制限

第18航空団広報局

8月12日～14日の旧盆期間中、第18航空団は同団所属の航空機の飛行活動を制限しました。日米で取り決められた航空機騒音規制措置に基づく措置で、周辺地域社会にとって特別に意義のある日には、訓練飛行を最小限にするよう配慮しています。旧盆期間中、急な任務飛行の命令がない限り、F-15戦闘機、KC-135空中給油機、E-3空中航空管制機、HH-60救難ヘリの訓練飛行は行わないという措置がとられました。同様な措置が、3月の県立高校入試日と6月23日の慰霊の日にも実施されています。





米軍関係者が沖縄でペットを飼うためには、様々な準備や手続きが必要になります。軍人関係者は長期出張で留守にする場合、ペットを預ける人を探したり、新しい転勤先の環境によっては、時には里親を探さなければいけないこともあります。

第18部隊支援中隊ケアリング・ケネルでは里親サービスやペットホテルを運営しています。ケネルのマネージャー、トレイシー・ペレスさんは、特に単身で沖縄に赴任している軍人・軍属でペットを飼っている人は、長期出張の際に一時的にペットの世話をしてくれる同僚や友人にお願いできるよう事前の予備プランを作る必要があると指摘します。預かってくれる人が探せない場合は、ケネルのペットホテルに有料で預けることができます。

ケアリング・ケネルは年間1,100匹ものペットを扱いますが、そのうちの15%は基地内で見つかる迷い犬(ペット)等です。地位協定で駐留している米軍関係者がペットを飼う際は、ペットにマイクロチップを埋め込んで登録することが義務付けられています。見つかったペットのチップをスキヤンすると、飼い主の情報等が出てきます。登録された飼い主から迷い犬の届出がない今までその犬が見つかると、飼い主は重い罰金を支払うことになります。残念な例として、新しい飼い主が決まった際に、譲渡登録がきちんとされていない場合に問題が発生します。そのためにも、ケアリング・ケネルは米軍関係者に対しペットに関わる規定等を説明し、正しく理解してもらうよう努めています。ペットも家族の一員、適切に安全に、そして大切に養う事が求められています。



(写真全て、米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)

!!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて紹介していくコーナーです。今回はこの方々にお話をうかがいました。



第18支援中隊 将校クラブ
コック 金城 幸一さん



Q1. あなたの職種と仕事内容をお聞かせ下さい。 SpotLIGHT!

嘉手納基地将校クラブでコックをしています。コックは日勤と夜勤の2交代制で勤務しており、日勤は早い人で、午前5時から勤務が始まり、午後3時頃には勤務が終了します。私は日勤で、毎日のランチバイキングや「カフェラテ」と呼ばれるクラブ内にある簡易食堂の食事の仕込みから調理をしています。また、基地内部隊などが行う歓送迎会や昼食会などの催事に出される食事の仕込み 調理などを予約状況を見ながら行います。

日勤勤務が長いので、新しい従業員や人事異動で夜勤から移動してきたコック達に日勤の内容を伝えたり、私を含めたコック全員が、仕事をしやすい環境を作れるように心がけています。



Q2. 職場のスタッフ構成は？

日勤の調理場には米国人のコック長、軍人軍属従業員1人、日本人従業員9人、うち6人がコックです。

Q3. この職場に勤めてどのくらいですか？ 15年です。

Q4. どういう点に仕事のやりがいがありますか？

「おいしかったよ」とか「今日の食事は良かったよ」とお客様から直接言われた時は1番嬉しいです。日曜日のランチ時には、ホールに出てローストビーフやハムを切ったりオムレツなどを調理していますので、お客様と会話をする機会があります。その際「ありがとう」と直接言ってもらえた時に、やりがいを感じます。



また、ランチバイキングでは月曜日は米国南部料理、火曜日はイタリア料理、水曜日はアジア料理、そして木曜日はバーベキューというように曜日によってメニューが変わります。金曜日は基本的に海鮮料理ですが、最近から金曜日にはコックが各自持ち回りでスペシャル料理をひとつ提案し調理をして出すようになり、個々のコックの意見が反映されるようになりました。料理の無駄や材料仕入額が減少し、売り上げが上がっているのが数字で見られるようになったことにも、やりがいを感じます。

SpotLIGHT!

Q5. この仕事の大変さについて。

洗い場の方も手がすいたときには調理場を手伝ってくれたりと、自主的にお互いを助け合って仕事をする方に恵まれていて仕事はし易いです。ですが、サービス業は直接お客様を相手にしているので褒められる場合もありますが、反対に直接苦情を受けたりすることがある仕事なので、他の仕事に比べキツイ仕事だと思います。

I8 FSS, Kadena Officers' Club

個人的な意見としては、作りたい料理があっても米空軍の衛生法により作れないものもあります。例えば、生ものは出すことが出来ません。お寿司を出す場合でも、燻製されたサーモンや海老など火を通したもののみです。また、注文を受けた後は、確実に、おいしく、早く提供したいのですが、温度管理など厳しく決められていて、なかなか思うように提供できないこともあります。注文された食事をいつも同じ量や味で出すことが基本なので、コック全員の統一を図らなければなりませんし、そうしようと努力をしていますが、なかなか円滑にいかないところです。

Q6. アメリカ人と働く環境での一番の課題は何ですか？

今、一番いい状況で仕事ができています。ここ数年コック長が不在だったのですが、現在のコック長は料理に関する知識があるのはもちろんですが、気配りが出来る優しい人です。私たちの仕事に対しても気配りがあり、折に触れて声をかけてくれます。頑張って仕事をしても何もないと物足りなさを感じると思いますが、コック長が「今日の料理、良かったよ」などと声を掛けてくれると、ちゃんと見えてくれているんだなと思います。

Q7. 軍の仕事で一番驚いたことは？

まず、規模の大きさです。調理場の広さやオープン、グリルなどの調理器具の規格は日本のそれに比べ大きいです。基地の外で働いていたときには、フライパンとトングを使って一つ一つ調理をしていましたが、ここではランチバイキングを中心ということもあります。魚、肉などの材料に関わらずすべて鉄板（グリル）とフライ返しを使って大量に調理します。簡易食堂のカフェラテでも鉄板で調理をするので、フライパンを使用しなくなりました。また、包丁は自前ですが、そのほかの器具は調理場に揃えられているアメリカ製を使用します。グリルなどはガスを使わずほとんど電気を使うので、温度調節には最初苦労しました。日本とアメリカでは長さや重さ、温度などの単位が異なるます。感覚はどうしても日本の単位で覚えているので、特に少量の場合にはそのつど頭の中で換算して、日本の単位に置き換えてという作業をしていて、未だに慣れません。

Q8. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？



(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



手抜きしていいとは言いませんが、あまり難しく考えないことです。厳しく言葉で伝えるよりも、見て学んだほうが良いと思っていますので、素直に学ぶ気持ちが大切だと思います。後から働き始めても年齢的には先輩の場合もありますが、この場所では初心者ですので、この職場のやり方をまずは学ぼうという姿勢が大切だと思います。また、協力し合って仕事が出来る環境を作れるように、そしてお互いが培ってきた経験や持っている知識を学びあっていけるように、意思疎通がちゃんと取れることが重要だと思います。

Kinjo-san!

18th Force Support Squadron

SpotLIGHT! SpotLIGHT! SpotLIGHT!

!!! 今月の SpotLIGHT